

# 鹿児島大学

No.25

# 同窓会連合会報



「第63回全国歯科大学同窓会・校友会懇話会」にて、城山より望む桜島  
(平成28年7月2日撮影)

特別  
寄稿

農学部の挑戦「地域連携ネットワーク・プロジェクト」

岩井 久(農学部長)

水産学部OB(魚水会会員)で現在、各界で活躍している人々を紹介します

岩元 善巳(水産学部同窓会魚水会会長)

鹿児島大学同窓会連合会  
2018年1月

# 鹿児島大学同窓会連合会会則

## 第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、鹿児島大学同窓会連合会と称する。

(目的)

第2条 本会は、鹿児島大学の学部別同窓会（以下「学部別同窓会」という。）の連合組織として、鹿児島大学の基本理念の達成に協力し、その発展に寄与するとともに、会員相互の交流及び親睦を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 鹿児島大学との連携及び協力
- (2) 学部別同窓会間の交流及び連携の推進
- (3) その他本会の目的に沿った事業活動

(支部)

第4条 本会に支部を置くことができる。

## 第2章 会員

(会員)

第5条 本会は、次に掲げる学部別同窓会及び特別会員をもって組織する。

学部別同窓会

- 鹿児島大学法文学部同窓会
- 鹿児島大学教育学部同窓会
- 鹿児島大学理学部同窓会
- 鹿児島大学医学部同窓会
- 鹿児島大学歯学部同窓会
- 鹿児島大学工学部同窓会
- 鹿児島大学農学部あらた同窓会
- 鹿児島大学水産学部同窓会魚水会

特別会員

- 鹿児島七高同窓会

## 第3章 役員等

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く

- (1) 会長 1人
- (2) 副会長 若干人
- (3) 代表幹事 1人
- (4) 幹事 学部別同窓会及び鹿児島大学からそれぞれ若干人
- (5) 評議員 学部別同窓会から各4人
- (6) 監事 若干人
- (7) その他会長が認めた者

(役員を選任)

第7条 会長、副会長、代表幹事及び監事は、総会において選任する。

(役員の仕事)

第8条 会長は本会を代表して会務を総理する。

2 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。

3 代表幹事は会務の執行を総括し、事務局を統括する。

4 幹事は本会と学部別同窓会との連絡調整を図るとともに、役員会及び幹事会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。

5 評議員は総会の構成員として、重要事項を審議する。

6 監事は会計の執行状況の監査を行う。

(役員の仕事)

第9条 役員の仕事は2年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員が生じた場合の補欠の役員の仕事は、前任者の残任期間とする。

(名誉会長及び顧問)

第10条 本会に、名誉会長及び顧問を置くことができる。

2 名誉会長及び顧問は、会長が委嘱する。

3 名誉会長及び顧問は、総会に出席し、意見を述べることができる。

## 第4章 会議

(会議)

第11条 本会の会議は、総会、役員会及び幹事会とする。

(総会)

第12条 総会は、第6条各号に掲げる役員をもって組織する。

2 総会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 役員の仕事に関する事項
- (2) 事業計画及び事業報告に関する事項
- (3) 予算及び決算に関する事項
- (4) 会則の改廃に関する事項
- (5) その他会長が必要と認めた事項

3 総会は、毎年度1回、会長が招集し、その議長となる。

4 総会は、第1項に規定する役員の仕事の過半数の出席により成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(役員会)

第13条 役員会は、会長、副会長、代表幹事及び幹事をもって組織する。

2 役員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

(幹事会)

第14条 幹事会は、会長、代表幹事及び幹事をもって組織する。

2 幹事会は、総会又は役員会において決定した業務の具体的執行計画等を審議する。

## 第5章 会計

(経費)

第15条 本会の経費は、学部別同窓会の分担金、寄附金等をもって充てる。

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

(監査)

第17条 会長は、会計年度ごとに決算書を作成し、監事の監査を受けなければならない。

## 第6章 事務局等

第18条 本会に、その事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局は、当分の間、鹿児島大学内に置く。

(雑則)

第19条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この会則は、平成17年4月7日から施行する。

附 則

この会則は、平成19年4月6日から施行する。

# 第25号の会報発行（平成30年春）に寄せて

同窓会連合会 会長 江口 正純



進取の気風漲る若者を育成する総合大学を目指している国立大学法人鹿児島大学は既に10万人を超えるOB、OGを全国各地や遠く海外に送り出してきましたが、その皆様方がそれぞれの地域に於いて存在感を発揮しながら御活躍下さっておられる事は御同慶の至りと存じます。

連合会は各学部同窓会の会長並びに幹事の諸氏が毎年数回集い合う事で横の絆の連携を深めて参りましたが、年2回発行している会報を通じて母校や各学部同窓会の近況を知る機会が増え「オール鹿大」の枠組みが一段と浮び上がってきております。

昨年9月24日には同窓会連合会の関東支部総会が3年に一度の節目として開かれましたが、210名を超える同志が集い合っただけの盛況となりお互いの活力を確認し合う場となりましたのは喜ばしい次第であります。

又その際出席された方々をはじめとする母校や在学生に対する卒業生達の熱い思いをぶっつける形で、今回もH29年12月2日（土）に“きばいやんせ 鹿大生2017”は地元鹿児島で頑張っている卒業生代表が参加して開催される事になりましたが、各企業、団体で中核となっておられる法文卒4名、医学部卒2名を束ねる黎明館館長 灰床氏（S51年法文卒）のリーダーシップでグローバル人材を目指している在学生達には大きな刺激を与える催しになるものと期待しております。

尚1959年に京セラを設立された稲盛和夫鹿児島大学名誉博士が功成り名をとげられた今日、国の財政事情が厳しくて毎年交付金が減額され続け、知の拠点としての存立が厳しさを増している母校鹿児島大学の為に、私財である京セラの株式100万株を寄付される受納式が平成29年11月16日に関係者多数が出席される中で開催されました。

御自分を、そして会社を育ててくださった地域社会に、いささかなりとも恩返しをしたいという崇高な精神の一環として、母校に対しても破格の寄付をなされたものであり、その目録を受領された前田学長は莫大で貴重な御寄附は将来にわたって志高い若者を育てると共に、地域社会に貢献していく為に大事に利用させて頂くとお応え頂いたのであります。

平成30年は明治維新150年の節目となる事もあって、各地で薩摩の誇る先人達が近代日本を立ち上げていかれた歴史を思い起こす催しが続き始めておりますし、平成30年1月7日（日）にスタートするNHKの大河ドラマ「西郷どん」によって、当時の薩摩人の心意気と郷中教育が日本の随所に及ぼしていった経緯が、画面に浮かび上がってくるのを期待いたします。

私共OB、OGが生まれ育ち、或いは他県から来られて青春を謳歌された郷土「鹿児島」や「母校」に対して誇りをもち続け、次代を担っていく志の高い後輩達が更に飛躍をしていかれる事を祈念しながらご挨拶いたします。

## 目 次

第25号の会報発行（平成30年春）に寄せて	1
学長挨拶	2
鹿児島大学の近況	3
各学部同窓会活動報告	7
特別寄稿（農学部、水産学部）	15

# 学 長 挨 拶

鹿児島大学長 前田 芳實



同窓会会員の皆様には、日頃より鹿児島大学の教育・研究に関しましてご理解とご協力を賜り、誠に感謝申し上げます。

さて、本学は、鹿児島の教育的伝統である「進取の気風」を継承し、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として「進取の気風にあふれる総合大学」を目指して取り組んでいます。

第3期中期目標・中期計画期間においては、『南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」』として役割を果たすため、本学の強み・特色・社会的役割を踏まえた機能強化を図り、様々な取組を進めています。

特に、今年度は新たに学部横断型の教育を展開する土台として、共通教育に「地域人材育成プラットフォーム」を開設するとともに、法文学部及び教育学部の改組ならびに教職大学院の設置を行ったところです。

また、これに引き続き、平成30年度には新たに大学院共同獣医学研究科を設置するとともに、南九州及び南西島嶼域に対する責任を、より一層果たすため、新たな機構の創設に向けた準備も進めているところであります。

本学の地域貢献に向けた様々な取組は、今年11月に公表された日本経済新聞社の「大学の地域貢献度調査」においても全国748大学中第3位と大変高い評価を受けているところです。

鹿児島大学は、これからも本学の強み・特色を活かした地域活性化の役割を果たすために、鹿児島県南北600kmをキャンパスとして、「オール鹿大」で地域創生に取り組み、地域産業をしっかり支える人材を送り出して参りますので、今後とも同窓会の皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

# 鹿児島大学の近況

—進取の気風にあふれる総合大学—

(2017年5月から2017年10月までのトピックス)

## ○志布志市と包括連携協定を締結（5月10日）

鹿児島大学は、志布志市と包括連携に関する協定書を締結することに合意し、5月8日に志布志市役所において協定締結の調印式を執り行いました。

式では、協定概要の説明があり、引き続き、本田修一志布志市長と前田芳實学長が協定書へ署名しました。

この連携協定は、それぞれの資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的としています。

本田志布志市長から、「この好機を活かすべく、本市の教育及び児童生徒の健全育成、基幹産業である農林水産業の振興、公共交通の確保・維持に関し、直面する課題の解決・活性化の一助となる施策を考えていきたい」との発言があり、また前田学長は「協定締結を機に、本学が標榜している地域社会の発展と活性化への貢献に挑んでいく決意を新たにしました」と述べました。

## ○鹿児島大学OBゴルフ大会実行委員会が寄附（5月22日）

5月22日、鹿児島大学OBゴルフ大会実行委員会委員長の江口正純氏（鹿児島大学同窓会連合会会長）が学長室を訪れ、ゴルフ大会参加者210名からの寄付金（20万円）を前田芳實学長に手渡しました。

寄附金は、4月23日に同委員会主催で開催された第36回OBゴルフ大会の参加者210人から母校のために使ってほしいと集められたものです。受け取った前田学長は、「温かい心遣いに感謝いたします。学生の留学支援や教育支援の充実などに大切にに使わせていただきます」と謝辞を述べました。

## ○「COC+推進フォーラム2017」～大都市圏に対する地元就業の魅力～を開催（6月14日）

鹿児島大学では、6月5日に稲盛会館において、COC+推進フォーラム2017「大都市圏に対する地元就業の魅力—かごしまにおける学卒者の地元就業への取り組み—」を開催し、大学関係者及び県内企業経営者、自治体関係者約220人が参加しました。

本フォーラムは、平成27年度文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の一環で、本学及び県内7校（COC+参加校）関係者のほか、鹿児島県、企業団体等の事業協働機関で構成される「かごしま学卒者地元定着促進協議会」（議長：前田芳實鹿児島大学長）の主催により開催されました。

COC+事業「食と観光で世界を魅了するかごしまの地元定着促進プログラム」の概要説明に続いて、鹿児島大学、COC+参加校（7校）、鹿児島県、鹿児島商工会議所及び鹿児島銀行による平成28年度の取組紹介が行われました。

「鹿児島ならではの魅力的な就業とは」と題したパネルディスカッションでは、南国殖産（株）の西村文孝人事教育課長代理、（株）お茶の下堂園の下堂園元副社長、（株）現場サポートの福留進一代表取締役、鹿児島大学4年の張本淳平さん及び鹿児島国際大学4年の西村未来さんがパネリストとして登壇し、地元就業の魅力や企業の魅力の効果的な情報発信のあり方をめぐってディスカッションが行われました。幅広い業務への関与が可能で、愛着ある地元での就業の充実感といった就業の魅力の再認識するとともに、学卒者に対する地域に貢献する企業活動全般の情報発信や、インターンシップやOB、OGとの交流の充実等の必要性について確認されました。

## ○共同獣医学部附属動物病院内覧会を開催（7月3日）

6月28日、鹿児島大学共同獣医学部附属動物病院の開院に伴う内覧会を農学部・共同獣医学部共通棟講義室で開催し、学内外から120名の関係者が出席しました。

共同獣医学部では、平成24年度より「国立獣医系4大学群による欧米水準の獣医学教育実施に向けた連携体制の構築」の事業を進めており、獣医学教育の国際的認証取得を目指していますが、この事業の一つとして、獣医学教育の充実のため、小動物診療センターの新築及び既存の動物病院の改修を行い、教育研究・

診療の機能強化を図ります。新病院は、「小動物診療センター」として、犬や猫などの伴侶動物の診療を専門とした施設となり、旧動物病院は、「大動物診療センター」として、主に産業動物の診療を専門とした施設になります。

内覧会に先立ち、前田芳實学長（代読：高松英夫理事）からは、「本動物病院の開院により、鹿児島大学は、地域活性化の中核拠点、鹿児島の地（知）の拠点としての役割を果たしていく所存です」と挨拶があり、来賓の山下治文部科学省大臣官房文教施設企画部長からは、新病院を拠点として世界的に活躍する獣医師の育成や南九州の中核病院としての質の高い医療の提供がなされ、我が国の獣医学の発展に大きく寄与されることへの期待が述べられました。

遠藤泰之共同獣医学部附属動物病院長からは、「獣医学教育の国際認証取得のために必要不可欠な施設が鹿児島大学に出来ることへの感謝」が述べられ、引き続き、三浦直樹共同獣医学部准教授が「獣医師臨床教育～Day One Skills～」と題して記念講演を行いました。

#### ○総合動物実験施設「AAALAC」（国際実験動物ケア評価認証協会）認証取得（7月19日）

5月21～22日に行われた米国 AAALAC International（国際実験動物ケア評価認証協会）の認証評議会において、鹿児島大学共同獣医学部の総合動物実験施設の認証取得が決定されました。

同協会は、動物実験における人道的な使用と管理を促進する非営利組織であり、今回の認証により、総合動物実験施設の動物管理が国際的な水準であることを証明することができました。

共同獣医学部では、今回の認証を受け、動物実験における品質管理を更に向上するとともに、引き続き、平成32年度のEAEVE（欧州獣医学教育機関協会）の認証を目指して獣医学教育の改善を進めていく予定です。

#### ○高病原性鳥インフルエンザ発生防止の取組に対し鹿児島県から感謝状授与（7月24日）

平成28年11月以降に鹿児島県出水市で発生した高病原性鳥インフルエンザに関し、「消毒の徹底」「ツル等、野鳥の監視や死亡野鳥の早期回収」「迅速な検査の実施」など、徹底した防疫対策により、今回初確認から早期の段階での養鶏農場への進入阻止が実現出来たことに対し、その取組が評価され、5月31日（水）に鹿児島県から鹿児島大学共同獣医学部をはじめとした関係団体へ感謝状の贈呈が行われました。

#### ○鹿児島大学『鹿大「進取の精神」支援基金』支援会第3回役員会を開催（7月31日）

7月27日、鹿児島大学で『鹿大「進取の精神」支援基金』支援会の第3回役員会が開催されました。

はじめに、岩崎芳太郎鹿児島県商工会議所連合会会長から開会の挨拶があり、続いて、鹿児島大学から基金の募金状況及び平成28年度事業報告と平成29年度事業計画の説明がありました。

活動報告として、理工学研究科機械工学専攻の弘川奨悟さんから学生海外派遣事業 GOES プログラムで10週間のシリコンバレー研修に参加したことが報告され、語学研修の様子やインターンシップ先での就業内容及び地域活性化活動についての取組み等について発表されました。

続いて、前田芳實学長から、南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての本学の取組について説明がありました。

その後行われた意見交換では、グローバル化の進展によって、英語力の向上は重要な課題であることに触れ、本学の外部英語試験入試の希望者優遇制度による受験者の増加や今後の英語教育の改革について早急に取り組んでいくことが確認されました。

岩崎会長からは、インターンシップは企業側にとっても優秀な学生を取り込む方法として重要視しているため、単位がとれるような地元企業での長期的取組や海外での導入支援について検討して欲しいとの提案がありました。

#### ○経営協議会学外委員と教育研究評議会評議員との意見交換会を実施しました（8月7日）

鹿児島大学では、経営協議会学外委員（学外有識者）と役員・部局長等で構成する教育研究評議会評議員との意見交換会を8月2日に実施しました。

この意見交換会は、経営協議会と教育研究評議会との合同懇談会を実施するとともに、学外有識者との意見交換の機会を充実することを目的に実施されたものです。

意見交換会では、最初に本学の研究紹介として「大規模火山噴火にレジリエントな地域社会の実現に向けた防災減災の取り組み」について、地域防災教育研究センター眞木雅之特任教授による講演が行われ、引き続き、「大学のイメージ戦略について」をテーマに、本学の広報事業の紹介、また、外国人留学生の受入数を増やすための環境整備への取組などについて活発な意見交換が行われました。

また、意見交換会に先立ち、水産学部練習船かごしま丸の視察も行われ、経営協議会学外委員に本学の状況をより一層理解いただく機会となりました。

#### ○中国清華大学生の研修を行いました（8月28日）

8月7日から11日までの5日間、鹿児島県がMOU（包括協定）を結んでいる中国清華大学の学生18名と、鹿児島県清華大学留学支援奨学金制度で清華大学留学に語学留学した鹿児島県内の大学生16名が、研修に参加しました。（参加した日本人学生は鹿児島大学6名、鹿児島国際大学8名、志学館大学1名、純心女子短大1名。うち8名は今年9月から清華大学で中国語を学ぶ予定の学生）

研修では鹿児島の地理と歴史について、講義と協働学習を通して学び、4日目にはエクスカッションとして「明治日本の産業革命遺産－製鉄・製鋼、造船、石炭産業」である尚古集成館、仙巖園、寺山炭窯跡、関吉の疎水溝を見学しました。最終日には研修の成果をグループごとに日本語で発表しました。

参加した清華大生は日本語学科の学生の他、コンピューター、設計学、生物学、医学、法学、比較文学など、専攻分野の異なる学生でしたが、皆、日本語を学習しており、研修は日本語で行いました。日本人学生とのグループ活動では中国語と日本語でコミュニケーションを取りながら、積極的に交流していました。

#### ○医用ミニボタ・先端医療開発研究センターに寄附講座「高生体適合性医療機器・臓器開発講座」を設置（8月29日）

研究推進機構医用ミニボタ・先端医療開発研究センターでは、社会医療法人白光会白石病院、日本ゴア株式会社、ニプロ株式会社、株式会社カネカメディックス、株式会社ジェイ・エム・エス、有限会社中央医科器械からの寄附により、寄附講座「高生体適合性医療機器・臓器開発講座」を設置しました。

本寄附講座は、現在、鹿児島大学に置かれる7件の寄附講座の一つとなります。設置期間は、平成29年6月1日から平成34年3月31日までの5年間で、総額1億円の寄附金を受け入れます。7月24日には寄附講座が設置される本学稲盛アカデミーにおいて、関係者臨席のもと武隈晃稲盛アカデミー長の祝辞に始まる内覧会を開催いたしました。

本寄附講座では、慢性腎臓病に対する安全かつ高品質な治療法の開発と臨床化を主な目的とし、血液透析医療に適した高い生体適合性を有する医療機器や、生体代用臓器の開発、あるいは既存の医療機器を用いた治療に付随するさまざまな問題に対する新規治療法の開発を目指した臨床研究および前臨床研究を行います。血液透析臨床医療における問題点把握と既存医療機器の課題把握、および既存の医療機器の課題を克服するための新たな医療機器開発や既存医療機器の課題の克服戦略を前臨床研究により確立し、産学協力型の前臨床研究体制の確立と臨床医療での実践を目指します。

#### ○林野庁九州森林管理局との連携と協力に関する協定を締結（8月31日）

鹿児島大学は、林野庁九州森林管理局との間で「連携と協力に関する協定」を締結することに合意し、8月30日に鹿児島大学において協定締結の調印式を執り行いました。

調印式では、原田隆行局長が「今回の連携で、林業が抱える問題の解決に向けて、社会人教育や職員のレベルアップ、低コストで森林を育てることなど、課題解決の糸口になることを期待している」と述べました。

また、前田芳實学長は、「協定締結を機に、さらに九州森林管理局との連携を深め、林業生産専門技術者の養成や、より広域な地域で教育・研究ができるよう発展させたい」と抱負を述べました。

九州森林管理局とは「九州の林業再生のために必要な人材育成等に関する協定書」を平成21年10月に締結していますが、本協定はこれまでの連携事項に研究・技術開発を加え、従前の協定を継続し、発展させた内容となります。

今後、本学と九州森林管理局が連携協力して、それぞれの資源、人材、技術や機能の活用を図りながら、生物多様性の保全をはじめとする森林の有する多面的機能の持続的発揮、林業の成長産業化への実現及び農山村地域の振興に貢献できるよう調査・研究及び人材育成等の促進を図ることとしています。

○教員の受賞等

- ①教育学部の池川直教授が日本彫刻会展覧会（日彫展）最高賞にあたる西望賞を受賞（5月8日）
- ②大学院の濱田倫史助教が「かぎん文化財団賞」を受賞（7月12日）
- ③大学院連合農学研究科の寺田竜太教授が「平成29年度ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を受賞（8月10日）
- ④地域防災教育研究センターの下川悦郎特任教授が平成29年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞（9月14日）
- ⑤理工学研究科辻村誠一准教授が国際瞳孔学会で記念講演（10月31日）

○海外の大学等からの学長表敬訪問

- ①イラン・イスファハン医科大学長一行（10月17日）
- ②ベトナム社会科学院一行（10月25日）
- ③ヴェルナー・ケーラードイツ総領事（10月27日）

○学生・大学院生の表彰等

- ①大学院連合農学研究科の畑晴陵さんが『平成28年度笹川科学研究奨励賞』を受賞
- ②硬式野球部 第97回九州地区大学野球選手権春季リーグ鹿児島地区予選で優勝
- ④理工学研究科の檀上創さんが「平成29年度化学工学会九州支部学生賞審査会」で学生賞を受賞
- ⑤理工学研究科の迫口翔吾さんが「第28回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会」で最優秀ポスター賞を受賞
- ⑥理工学研究科阿多優里菜さんと柳衛真人さんが台湾-日本二国間ワークショップで優秀ポスター賞を受賞
- ⑦連合農学研究科の小園淳平さんが「第8回アジア太平洋藻類学会議」で最優秀ポスター賞を受賞
- ⑧理工学研究科の谷末武人さんが「第77回日本分析化学討論会」でポスター賞を受賞

**鹿児島大学『鹿大「進取の精神」支援基金』へのご寄附のお願い**

鹿児島大学は、地域活性化の中核的拠点として、学生のグローバル教育の推進や地域に貢献する人材の育成など教育研究支援の強化に取り組むため鹿大「進取の精神」支援基金を創設いたしました。

つきましては、本基金の趣旨にご賛同いただき、皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本学への寄附につきましては、所得税法、法人税法上の優遇措置の対象となります。

◇基金の詳細につきましては、以下にお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

・お問い合わせ先：鹿児島大学学長戦略室 TEL：099-285-3101 又は 3102 / FAX：099-285-7034

E-mail：s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp

・基金ホームページ：http://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/



# 各学部同窓会活動報告

## 法文学部同窓会

### 1. 平成 29 年度（第 65 回）法文学部同窓会定期総会の開催について

平成29年11月18日（土）城山観光ホテルにて、高津孝学部長、学部の先生方をお招きして、平成29年度（第65回）法文学部同窓会定期総会を開催しました。総会に先立ち、上堀内強氏（鹿児島市明治維新150年・西郷どん推進室長）を講師としてお招きし、「明治維新150周年・大河ドラマ「西郷どん」放送に向けての取り組みについて」という演題でご講演いただきました。

総会は江口会長の挨拶のあと平成28年度決算、29年度予算案に付いて諮られ全て承認されました。

今回は役員改選の年ではないのですが、江口正純会長から申し出があり、仮屋基美副会長が会長に選出され、江口会長は名誉会長に就任されました。また、「鹿児島大学法文学部同窓会教育研究助成基金」派遣学生2名による体験発表もありました。

懇親会は今村副会長の乾杯でスタートし、恒例の同窓生全員による近況報告があり、文理学部の卒業生の元気さに圧倒されました。宴もたけなわの頃、川井田副会長の巻頭言で「北辰斜めに」を全員で肩を組みながら斉唱し、最後に仮屋新会長の元気ハツラツの「万歳三唱」でお開きとなりました。



仮屋基美会長



北辰斜めに

### 2. 第5回鹿大法文学部同窓会福岡支部同窓会開催

平成29年10月7日（土）午後5時から博多区博多駅東の「八仙閣本店」において福岡支部の第5回同窓会が開催されました。中島支部会長、仮屋法文学部同窓会副会長、藤内法文学部副学部長の挨拶に続き、2016年度の決算、2017年度予算が全会一致で可決され、「福岡地区支部同窓会会則」について、中島会長、田中事務局長から説明があり出席者全員一致で承認されました。懇親会は参加者30名全員の自己紹介、近況報告があり、最後に「北辰斜めに」を全員で斉唱し、閉会となりました。

### 3. 第9回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペ開催

平成29年10月21日（土）第9回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペが南国カンツリークラブで開催されました。当日は台風21号の接近に伴い風が強く小雨交じりの生憎の天気でしたが34名の参加者で白熱したプレーが展開されました。成績は以下のとおりですが、牧安伸氏はショートホールで18打も打ちながら、見事3位入賞を果たしました。

優勝	木場 晃（S41年、文理学部理学科卒）	ネット	71.6
2位	今原 和郎（S50年、法文学部経済卒）	ネット	72.4
3位	牧 安伸（S42年、文理学部経済卒）	ネット	72.6
ベストグロス	堀之内 勇（H2年、法文学部法学科卒）	グロス	80.0
ベストグロス	中野 寿康（S56年、理学部卒）	グロス	80.0

## 教育学部同窓会

### 平成29年度 鹿児島大学教育学部同窓会総会・懇親会は台風のため中止

平成29年8月6日（日）に予定されていた平成29年度鹿児島大学教育学部同窓会総会・懇親会は台風5号のため、中止されました。

総会には136名、懇親会に154名の出席者を予定しておりました。特に、懇親会担当学年である51年卒のメンバーが頑張ってくれておりましたが、台風襲来のため断腸の思いで中止に至りました。

会場運営、受付等入念な計画を年1回の同窓会の総会・懇親会のため、準備しておりましたが、ぎりぎりの8月4日（金）に石神会長の最終判断で、中止となりました。そのため電話にて、出席予定者の各会員に取り急ぎ連絡することになりました。

今回の懇親会の席で教育学部「同窓会の歌」の歌詞を披露予定にしておりました。歌詞は「我が友よ」の題名で元教育学部長伊牟田経久先生の作られたものです。ついでに申しあげますが、作曲は昭和45年卒業生の藤尾清信先生（純心女子短大教授）と石田匡志先生（教育学部准教授）がこれに当たられ、曲が完成した時には、次回の記念大会で下野竜也先生の指揮の下、会員に披露される予定です。

次に伊牟田経久先生作詞の内容と先生のその趣旨について紹介します。

一	いま明 <sup>そ</sup> け初 <sup>ひんがし</sup> むる 東 <sup>みなも</sup> に	二	源 <sup>み</sup> はるか 甲 <sup>と</sup> 突 <sup>わ</sup> の	三	ゆかりも深 <sup>いしづみ</sup> き 学 <sup>い</sup> び舎 <sup>し</sup> の
	聳 <sup>い</sup> えて高 <sup>い</sup> き 桜 <sup>い</sup> 島		流 <sup>と</sup> れは永 <sup>と</sup> 遠 <sup>わ</sup> に 水 <sup>い</sup> 清 <sup>き</sup> し		歴 <sup>い</sup> 史 <sup>し</sup> を刻 <sup>い</sup> む 石 <sup>い</sup> 碑 <sup>し</sup> に
	雄 <sup>い</sup> 雄 <sup>き</sup> しき姿 <sup>い</sup> 仰 <sup>い</sup> ぎつ <sup>つ</sup>		進 <sup>い</sup> 取 <sup>き</sup> の精 <sup>い</sup> 神 <sup>し</sup> 伝 <sup>い</sup> えつ <sup>つ</sup>		輝 <sup>い</sup> く功 <sup>い</sup> 績 <sup>し</sup> 偲 <sup>い</sup> びつ <sup>つ</sup>
	教 <sup>い</sup> えの道 <sup>い</sup> に 志 <sup>い</sup> し		未 <sup>い</sup> 来 <sup>き</sup> を担 <sup>い</sup> う 人 <sup>い</sup> 材 <sup>し</sup> を		絆 <sup>い</sup> は堅 <sup>い</sup> く 結 <sup>い</sup> ばれて
	共 <sup>い</sup> に学 <sup>い</sup> べる 我 <sup>い</sup> が友 <sup>し</sup> よ		共 <sup>い</sup> に育 <sup>い</sup> む 我 <sup>い</sup> が友 <sup>し</sup> よ		共 <sup>い</sup> に集 <sup>い</sup> へる 我 <sup>い</sup> が友 <sup>し</sup> よ

#### 【歌詞の趣旨】

「我が友」は鹿児島大学教育学部の同窓生を、年齢の差や世代を超えて、等しく「教への道」（教育）に志し学ぶ仲間として親しんで呼ぶものである。

一は、「桜島」が暁の空高く聳え立つ姿をイメージし、『雄大さ、熱さ、高さ（高き志）・活動』などの象徴として、我々は志を同じくする友（同級生）であることを歌う。

二は甲突川の水源地の水が流れ下って豊饒の海（錦江湾）となるさまをイメージし、（永遠性・歴史・伝統・清らかさ）の象徴として、進取の精神を継承し未来を担う人材（児童・生徒はもちろん、後継者を含めて）の育成に努めることを歌う。

三は教育学部同窓会創立十五周年記念事業として設立された（沿革の碑）を取り上げ、先人の功績を偲び、同じ志をもつ同級生が堅い絆で結ばれ集う意義（同窓会の伝統と結束）を歌う。

来年の設立二十周年の総会及び記念式典・講演会・祝賀会は8月5日（日）です。場所はジェイドガーデンパレスで、当日の受付は8時30分より、9時に総会が始まり、続いて、式典講演となり、12時40分から祝賀会の開催予定です。下野竜也先生の指揮によるオーケストラ演奏と講演があります。世話係担当学年は52年卒の会員となります、多くの会員の参加を期待しております。

### 鹿大祭の思い出

理学部同窓会（平成3年卒）満村 和洋

全国各地でご活躍の同窓生の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。私は平成3年3月に鹿児島大学理学部化学科を卒業し、現在まで鹿児島県立高校の理科教員をしております。卒業後四半世紀が経ちましたが、授業を担当した生徒が科学に興味を持ち、鹿児島大学理学部に進学した者もあり、鹿児島大学の様子を聞かせてもらっています。施設が新しくなり、学科改組などで大学の雰囲気も変わったかと思いますが、教え子の話から大学祭だけは私の学生時代と変わらないように思っていました。そんな折、鹿大祭のみこしパレードが今年度限りだということを報道を通して知りました。返す返すも残念でなりません。

私が在学中は2年生がサークルの模擬店やみこしに携わるため、学部の方は3年生が担当でした。あまりまじめな学生でなかったのと、南国（鹿児島よりも南）の出身で寒さが苦手だったことで、後期の講義をサボる私を出席させるためか、私がみこしの担当になりました（おかげで午後の実験の講義を履修できました）。この前の年、私の学科の政治献金を批判するみこしが新聞の取材を受けたことから、この年のテーマもそれを継承する形ですんなり決まりました。みこしの製作中は、材料の調達、製作の段取り、作業後の飲み会の準備、連日の作業で参加人数激減時の不満への対応など、大学生活の中で最も私にはハードではありましたが、楽しく充実した期間あり、今なお鮮烈な記憶でもあります。

学校教員の仕事も意見の調整や段取りが必要なこともありますが、それには学生時代に経験したことが大いに役立っています。また、行事を通して人との関わり合い方、交友を深められることを学べる大事な機会であるとの考えから生徒を学校行事へ積極的に取り組ませています。加えて、子どもの小学校で「おやじの会」として活動しています。PTA活動が主に母親中心だったので、おやじも頑張ろうと各小学校で立ち上げられた会です。運動会の駐車場整備や誘導、バザーでの餅つき体験などPTA活動を補完することや、緑門・門松作りなど独自活動も行っています。仕事や地域活動へ参加がスムーズに行えるのは学生時代の経験があるおかげだと思います。今後も鹿児島大学の学生が多種多様な経験を糧として、進取の精神で活躍されることを同窓生の一人として祈念しています。



(写真左)



(写真右)

平成元年 鹿大祭みこしパレードの様子

写真左：大学本部前の出発式で（左手前が筆者）

写真右：大学近くの交差点で

## 医学部同窓会

### 医学科同窓会鶴陵会

#### 同窓会の法人化

昨年鶴陵会支部長から鶴陵会の法人化を進めてはどうかとの提案がありました。各同窓会でも検討の余地があると考えますので、同窓会組織の法人化について紹介します。平成20年12月「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」が改正され、一般社団法人、財団法人への変更が容易になったとされています。同窓会は任意団体ですが、一般社団法人にする場合、「共益的活動を目的とする」いわゆる『非営利型法人』とすることで税制の優遇を最大限に受けることができます。九州・山口地区医学部同窓会では山口大学医学部同窓会霜仁会が昭和55年に社団法人として認可され、九州大学医学部同窓会が平成22年に一般社団法人格を取得しています。公益社団法人格を認められているのは大阪大学医学部同窓会のみのようなようです。

一般社団法人格を取得することのメリットは室蘭工業大学同窓会の資料から引用すると、以下のことが挙げられるようです。

#### 【会員へのサービス向上】

会計管理の安全性（法人名義の財産管理、銀行口座開設）と透明化、マイナンバー制度による税金対策の回避（将来、財務担当者もしくは会長名義であれば個人への課税がなされる可能性がある）、財務諸表を中心にした一般的な予算決算管理（これは鶴陵会ではすでに行っている）信用性の向上（銀行からの融資、不動産取得など）、組織の責任体制の明確化など

#### 【母校支援】

法人同士のため協力関係が明確、大学との契約に基づき様々な事業が可能（教育、研究、社会貢献事業に参画）、文部科学省への存在アピール（知名度の向上）、など

鶴陵会は現在入学時の入会金、卒業時の会費納入で終身会費制を取っていますが、これらとの整合性の検討や「定款」作成など課題は多いようです。

（文責：医学部医学科同窓会鶴陵会会長 高松英夫）

### 保健学科同窓会

#### 活動報告

今回の保健学科の活動報告は、保健学科理学療法専攻部会会長を仰せつかっております宮崎が担当します。保健学科の卒業生も15期生を迎え、保健学科創立20年が目の前となりました。保健学科1期生の私としては、あの大学に入学した頃からもう20年近くも経つことに驚きです。桜ヶ丘から望む桜島や錦江湾、神輿パレードで通過した甲突川、学生の頃よく飲んでいた黒伊佐錦や島美人、鹿大名物自己紹介のストーム、変わらないものはたくさんあります。しかしよく先輩に連れて行って頂いた騎射場の飲み屋やカラオケ店、本学の農学部門や生協、鹿児島西駅、駅前ビルも変わりました。理学療法学専攻の先生方も退職される先生がおられ、新しい先生方が赴任されました。懐かしかった先生方がいなくなった学び舎は寂しいものですが、知った顔の後輩が教官として、教壇に立って後輩たちに教鞭をふるう姿は今までとは違った親近感を感じます。

同窓会も一年一年積み重ね、新しい取り組みをしていきたいと同窓会委員で話を始めました。変わらないものと変わったもの、変えたいものと変わってしまったもの、本同窓会で伝統が生まれているのか、確かめてみたいと思う今日この頃です。

「変わらないために変わり続ける」最近私が好きな言葉です。卒業生同士の絆をより強く結ぶため、今後も変化に富み魅力ある同窓会を目指します。

（文責：保健学科同窓会副会長・理学療法学専攻部会会長 宮崎雅司）

## 歯学部同窓会

### (主な活動報告)

- 4月23日(日) 鹿児島大学学部対抗ゴルフ大会(於 蒲生カントリークラブ)
- 5月7日(日) 鹿児島大学歯学部同窓会関東支部講演会、懇親会(於 東京目黒の三州会館)  
川越専務参加
- 5月21日(日) 神奈川歯科大学創立100周年記念行事  
村上会長参加
- 6月21日(水) 教授会との協議会(於 歯学部会議室)
- 7月1日(土), 2日(日) 中部支部懇親会、学術講演会講師: 1期卒木下先生(於 名古屋)  
村上会長、佐藤副会長、川越専務参加
- 7月8日(土) 教授会との懇親会(於 東急REIホテル)
- 7月22日(土) 九州大学歯学部創立50周年記念行事(於 福岡)  
村上会長、川越専務 参加
- 7月26日(水) 平成29年度第1回評議員会(於 歯学部示説室)
- 8月26日(土), 27日(日) 第33回全国歯科大学同窓会・校友会学術連絡会(於 福岡)
- 9月 中旬 会報誌第26号発刊
- 9月30日(土) 北海道大学歯学部創立50周年記念行事(於 札幌)
- 10月14日(土) 九地連同窓会懇親会(於 大分)  
村上会長、川越専務参加
- 10月21日(土) 第64回全国歯科大学同窓会・校友会懇話会、10月22日(日) 平成29年度国立大  
学歯学部同窓会連絡協議会(於 岡山)  
村上会長、川越専務、鍛冶屋理事 参加
- 10月29日(日) 鹿児島大学歯学部創立40周年記念事業  
同窓会総会・学術講演会(同窓会奨励賞講演会)(於 県歯科医師会館)  
同窓会懇親会(於 天文館リバティークラブ)

同窓会総会・学術講演会に引き続き、会場をリバティークラブに移して懇親会が開催されました。教授、卒業生、学生が県内、県外から参加して総勢120名を超える数となり会場は熱気につつまれていました。村上同窓会長、宮脇歯学部長のあいさつのあと、山崎副病院長の乾杯のご発声で開宴となり、その後和気藹々とした中懇親会は進行し、宴たけなわの中、谷口同窓会鹿児島支部長の閉会でしめとなりました。



## 工学部同窓会

工学部同窓会庶務幹事 曾我 和弘

平成29年度の工学部同窓会の主な活動内容について、以下にご報告いたします。

### ○鹿児島大学工学部同窓会拡大幹事会

平成29年8月18日（金）にジェイドガーデンパレスにて拡大幹事会が開催され、昨年度の運営報告と今年度の運営計画が審議されました。その中で、鹿児島大学の「進取の精神」支援基金に対して、工学部同窓会から300万円の寄付金を拠出する案が審議され、満場一致で承認されました。また、渡邊睦工学部長から、鹿児島大学工学部は、2020年に創立75周年の節目を迎えるため、工学部創立75周年記念事業を行う計画であることが説明され、工学部同窓会への協力依頼がありました。それを受け、松永洋文工学部同窓会会長から、工学部創立75周年記念事業の期成会を立ち上げることが宣言されました。以上の拡大幹事会に引き続き、平成29年度の「岸園賞」の選考会を開催しました。

### ○平成29年度「岸園賞」選考会

「岸園賞」とは、鹿児島大学工学部の名を高めた方、あるいは工学部同窓会活動に尽力した方を表彰するものであり、寄付者の岸園氏のご遺志である「鹿大の発展を。工学部同窓会の発展を」という理念のもと、工学部同窓会会員の表彰を重ねております。今年度は、機友会より特別会員の福井泰好氏、錦水会より元工学部同窓会会長の今村彬氏が候補者に推薦され、満場一致で、お二人の受賞が決定しました。

平成29年度「岸園賞」受賞者：福井泰好氏（特別会員、機友会推薦）

（受賞理由）機械工学科の管理運営および機友会活動のみならず、工学部の管理運営および工学部同窓会活動に大いに貢献された方。

平成29年度「岸園賞」受賞者：今村彬氏（電気工学科 S29年卒、錦水会推薦）

（受賞理由）工学部電気工学科を昭和29年に卒業以来長きにわたって工学部および工学部同窓会の発展に尽力されてきた方。

### ○第6回「司会」

今年度は、平成28年度「岸園賞」受賞者の三宅征夫氏（応用化学科 S43年卒、応用化学専攻 S45年修了）をお招きし、総勢58名での開催となりました。松永洋文工学部同窓会会長より、「岸園賞」受賞者へ表彰状と記念品の贈呈が行われ、三宅征夫氏より、これまでの文部省国立教育研究所での活動についてご講演をいただきました。その後、渡邊睦工学部長の乾杯のご挨拶をいただき、懇親会となりました。懇親会は、産学官の連携推進を図る良い機会となりました。



## 農学部あらた同窓会

### 「学生向け講演会」

例年農学部との共催で行っている「学生向け講演会」は、平成29年度も昨年と同じく「海外留学」をテーマにして行うことにした。今年度は「海外留学に対する心構えと準備」を主題にして、平成29年7月27日（木）16：20～17：30に農・獣医共通棟101号教室で開催した。出席者は、教職員・学生合計で約50名であった。昨年もお話をいただいたグローバルセンターの畝田谷先生、次いで実際に「トビタテ Japan」に応募し留学する予定の学生と帰国した学生の二人の経験者および共同獣医学部の三浦先生にお話をいただいた。以下は、講演会の概要である。

（1）畝田谷桂子先生：「海外留学に出かけるまで一心構えと準備」というタイトルで、鹿児島大学の学生が応募可能な留学制度のいくつかをあげていただき、「留学までの流れ」、「利用可能な海外留学制度」、「応募できるタイミング」、留学を希望する場合の「全てに優先する大目標」は①自力で留学にこぎ着けること、②無事帰国すること、であることを強調された。そして、学生に対して「心が動いたらやってみよう（できたかもしれないのに、しないで思い残すのは一生の心残り）」、「自分のために時間を裁量できる学生時代こそ、海外体験で視座を高めるチャンスであり」、「留学によってこれからの人生のとらえ方が変わる」とエールを送っていただいた。

（2）大西弘也さん（大学院・生物生産学専攻1年）：「トビタテ Japan」に応募・合格して後期からオーストラリアのマードック大学（パース市）に留学する。タイ等の海外の体験が留学のきっかけとなったこと。留学先をマードック大学に志望したのは卒論や修論で取り組んでいる「パッションフルーツのウイルス病に関する研究」をするためであり、指導教員の大きなサポートを受けたことなどをもとに、留学前に準備したこと、面接についての報告があった。

（3）松野美里さん（大学院・生物資源化学専攻2年）：「トビタテ Japan」でスロベキア農業大学に6ヶ月間留学した。応募のきっかけは、「国際協力農業体験講座」で中国を訪問したことであること、「トビタテ Japan」では多種多様な留学計画が立てられること、採択前の留学計画書の作成やプレゼン発表、採択後の事前・事後研修が自分を見つめ直すきっかけになったことなどの報告があった。

（4）三浦直樹先生（共同獣医学部・獣医学科）：「専門課程の学生留学－海外の担当者からの声」というタイトルでこれまで留学希望者を指導して海外留学に送り出した経験を、ご自分の留学時の経験も踏まえて話していただいた。海外留学は人生において大きな経験と自信につながることで、留学のためには心構えを含めて十分な準備が必要なこと、そのためには留学希望先の情報を十分仕入れて望むことを強調された。



写真 左から畝田谷先生、大西君、松野さん、三浦先生

（文責：農学部あらた同窓会常任副会長 富永 茂人）

## 水産学部同窓会魚水会

### 魚水会は水産学部と連携し、より一層就職に強い学部を目指します

今年4月の水産学部卒業生の就職先は東証一部上場企業15名（15.2%）など上場企業に36.4%、農林水産省などの中央省庁や鹿児島県や熊本県の公務員に15.1%、銀行や各種団体などを含めると、ほとんどの人がそれなりの就職先に就職でき、就職に強い学部としての世間の評判も定着してきています。

就職環境は長い冬の時代を抜けて明るい陽射しがさしていますが、このような時こそ手綱を緩めることなく積極的に活動していかないといけないと思います。

これも長年、学部と一体となって就職支援活動をして来た結果が出てきたものと思います。

今年も10月4日（水）に就職支援講座説明会と第1回就職支援講座を開催し40名近くの学生が参加しました。この講座は、来年の5月まで毎週水曜日に開催することになります。

今年度、厚生労働省と兵庫県庁に就職が決まった岩切友絵さんと高木敏行君が後輩の学生に勉強の心得、就職活動のやり方など経験をもとに話していただきみんな熱心に聞き入っていました。



その他に魚水会は学生に

- 1, 2500万円の学術振興基金により何年も前から学生の学会発表の旅費の援助などをしてたくさんの学生が恩恵を受けています。
- 2, 成績優秀者に魚水会賞を授与したり、卒業生全員に記念品を贈っています。
- 3, 魚水会名簿を3年生、4年生に無料で贈り就職活動などに利用して貰っています。
- 4, 他にも学生にいろいろな支援活動をしています。



## ▶特別寄稿文◀

### 水産学部特別寄稿

#### 水産学部 OB(魚水会会員)で現在、各界で活躍している人々を紹介します

水産学部同窓会魚水会会長 岩元 善巳

◎林兼産業(株) 代表取締役社長 熊山 忠和 昭和44年(1969)水産増殖学科卒業

林兼産業(株)は東証一部上場企業、スーパーなどでキリシマハムの名前でハム、ソーセージなども製造している。熊山氏は養殖の人工餌料などの開発を主に手掛けてきて、生餌に頼らない餌料を開発し、クロマグロやブリ、カンパチなどの養殖事業などにも大きく寄与しています。

◎キューピー(株) 代表取締役社長 長南 取<sup>ちょうなん おさむ</sup> 昭和55年(1980)海洋食料学科卒業

キューピー(株)はご存知のように創業100年の東証一部上場企業でマヨネーズ、ソースなどの製造販売で連結売上は5,523億円、海外など含め14,000人の従業員がいます。キューピー製品は世界中で販売されています、又、スーパーなどで売られている日本の鶏卵の相場も作っています。

◎OUG ホールデンクス 代表取締役社長 勝田 昇 昭和49年(1974)経営学科卒業

OUG ホールデンクスは東証一部上場企業です。

旧大阪魚市場(株)で大阪の台所をあずかる(株)うおいち、(株)シヨクリュー、(株)兵殖などを代表する企業

勝田氏を入れて現在、魚水会会員で現職の東証一部上場企業の代表取締役社長は3名いることになります。

◎鹿児島県水産技術開発センター(旧鹿児島水産試験場)センター長 織田 康平 昭和56年(1981)水産資源学科卒業

鹿児島県の水産に関することを研究、開発している機関のトップです。

環境に優しい養殖業や水産加工技術などの開発研究、水産資源管理や資源開発、種苗生産技術などの開発研究、リアルタイムな情報提供、漁業研修や成果の普及などをやっています。

◎水産庁 漁業調査船 開洋丸(総トン数 2,630トン)船長 曾根 光司 昭和57年(1982)航海学科、59年専攻科卒業

日本の水産の開発、調査、指導、監視など多くの船舶がいる中で一番大きな船の船長をつとめている。

本船は流氷域及び熱帯域を含む全ての海域において、各調査機器と大型表中層トロール網により、水産生物の的確な資源調査、有用生物の発掘及び資源動向に影響を与える海洋環境調査等の基礎的研究を行う大型漁業調査船です。

鹿児島近海にも中国、台湾などの漁船に荒らされた宝石サンゴの調査などに来ています。

◎日本一(世界一)の活魚運搬船会社 住宝丸活魚運搬(株) 代表取締役社長 住田 富重 昭和57年(1982)本学卒業、58年専攻科卒業

今、200カイリ以降、作り育てる漁業が盛んになりましたが、生きた魚を運ぶ方法は大変難しく、1社やめ2社辞めていった会社を彼の人徳で引き受けてくれとの依頼があり、知らないうちに日本の活魚運搬船の80%のシェアを握るまでになりました。

活魚流通するのは生きた魚を重宝する日本ならではの産業で日本一はまさに業界では世界一の会社になりました。

彼の会社が無いと今の日本の養殖は成り立たないと言っても過言ではありません。

彼は6年前に制作した鹿児島大学寮歌・学部歌のCD制作に個人のポケットマネーを出してくれて、楠声会(フロイデコールOB会)の合唱にて完成しました。

◎愛媛県宇和島水産高等学校 校長 田上 和昭 昭和57年(1982)生物生産学科卒業

ハワイ沖で航海実習中にアメリカ原潜に沈没させられた練習船『えひめ丸』で知られています。

又、海外など各地で引っ張りだこのフィッシュガールも有名です。

創設以来、和敬・克己・勤勉の校訓のもと地域や水産・海洋関連産業界等と連携し、実践力、コミュニケーション能力、責任感、社会性を兼ね備えた水産人として国家社会に貢献する有為な技術者の育成に努めています。

◎愛知県立三谷水産高等学校 校長 丸崎 敏夫 昭和57年(1982)海洋資源化学学科卒業

創立以来70年の歴史ある高校で、愛知県唯一の水産高校として、8000余名の本科卒業生及び900余名の専攻科修了生を送り出しています。卒業生は地域の水産業界の中心的役割を果たしてきたばかりでなく、日本各地はもとより広く世界に飛び出して活躍してきました。本校は、水産に関する専門教科の学習が半分を占め、各種の資格を取得することができます。

◎映画『花戦さ』(角川書店)原作者 鬼塚 忠 平成2年(1990)海洋社会科学学科卒業

学生時代、自分を見つめなおす為に1年間イギリスに英語の勉強で留学し帰国後、復学し、卒業後就職せずに貯めたお金で3年間程、世界40数か国の放浪の旅に出る。帰って来て外資系の出版関係の仕事に従事し独立する。

今、TOHO シネマから全国上映されている『<sup>はないく</sup>花戦さ』(角川文庫)の原作者です。

脚本は今年のNHK大河ドラマ『女城主・景虎』や「J I N - 仁 -」「ごちそうさん」「天皇の料理番」などを書いている森下佳子さん、音楽は久石譲さん、配給は東映にて全国350館以上で公開しています。

役者は野村萬斎 市川猿之助 中井貴一 佐々木蔵之介 佐藤浩市 高橋克実 山内圭哉 和田正人 森川葵 吉田栄作 竹下景子など、監督は、情感あふれる作品づくりに定評があり、藤沢周平原作の「山桜」や「小川の辺」など、時代劇でもその手腕をみせた篠原哲雄。音楽は、スタジオジブリ作品、北野 武作品などを中心に、日本の映画音楽界を牽引する巨匠、久石 譲など豪華キャストです。



なぜか、農林水産省の推奨映画です。

彼の作品が映画化された著作に

『海峡を渡るバイオリン』(草薙剛さん主演・文化庁芸術祭優秀賞)

『Little DJ』(神木隆之介さん主演)

『カルテット!』(高杉真宙さん主演)

『僕たちのプレイボール』

『サングレンジャー』(青柳翔さん主演)

『風の色』(講談社)が2017年、『恋文讃歌』(河出書房新社)が2019年映画化予定。

※まだまだ水産学部 OB はいろんな所で活躍していますが、紙面の都合で今回はこれくらいで割愛させていただきます。

## ▶特別寄稿文◀

### 農学部挑戦「地域連携ネットワーク・プロジェクト」

農学部長 岩井 久

農学部では、平成27年度に採択された学長裁量経費事業を契機に、「地域の農林畜産業の課題解決の知の拠点としての農学部変革―地域連携のための基盤整備を通して農学部を強くする―」をテーマにした地域連携ネットワーク・プロジェクトを開始しました。「地域ネットプロ」と通称するこの計画では、農学部の教員や技術職員が鹿児島県内各地を訪問し、地域課題を掘り起こし、それらの解決に向けた教育・研究に積極的に取り組むこと、そして地域の人々と鹿児島大学の間の壁を低くし、本学が地域とともに歩むための基盤作りを行うことを目的としています。

農学部の教職員は、以前より、専門分野ごとに地域の求めに応じ、研究や学生教育を通して地域と関わってきました。地域ネットプロにおいては、先ず、それら各個人の地域活動を調査し、鹿児島県の地図上にプロットしました（農学部・地域連携ネットワーク HP 参照）。そのことによって、様々な分野の多くの教職員が県本土・離島の同じ地域を訪問し活動しているという情報が共有化され、異分野の教職員間での連携が可能であることを確認しました。そして、多分野の教職員が特定地域に入り、分野を横断する形で地域課題に取り組むことの必要性を、お互いに認識しました。

また、このような調査と並行して、鹿児島県内の7つの地域振興局（2支庁を含む）を単位に農学部の教職員グループが地域に赴いて、生産や加工の現場を見学し、行政や生産者の方々と（晩は焼酎で）懇談することによって、地域の課題を知る機会を作りました。

地域ネットプロを契機に取り組みを始めた個別課題としては、①ソバの耐湿性の評価とその軽減技術開発（鹿児島地域）、②長命草の収量増を目的とした栽培技術の確立（南薩地域）、③果樹栽培における鳥害防除（北薩地域）、④アーモンド栽培への取り組みによる地域おこし（始良・伊佐地域）、⑤辺塚ダイダイ果実の品質と貯蔵に関する研究（大隅地域）、⑥安納イモ糖度の非破壊計測法の開発（熊毛地域）、⑦トウガラシ栽培を活用したシカ忌避効果の実証（熊毛地域）、⑧奄美大島および島嶼部におけるサトウキビ塩害の作用機作の解明と回避技術の確立（奄美地域）などがあります。

地域ネットプロの活動を検証するために、県内行政機関の局長・部長や生産者団体の会長・専務理事と学部の4分野（農業・畜産・食品・林業）の代表教員からなる地域連携協議会を年2回開催しており、年度末には、成果を公開するためのシンポジウムを行っています。また、当プロジェクトは、鹿児島大学の地域戦略に沿って推進することが重要であり、かごしまCOCセンターの農林畜産部会との密接な連携を図りつつ、活動を進めています。



野生動物被害防止の現場見学・意見交換会（さつま町紫尾集落 平成29年11月13～14日）

## キャリア支援セミナー「きばいやんせ、鹿大生 2017！」

No Attack No Chance !!

～それぞれの可能性を信じ、未来に向けて～

日時	平成 29 年 12 月 2 日 (土) 13:30~17:00
場所	農・獣医共通棟 1 階101講義室
講師	灰床義博 氏 鹿児島県歴史資料センター黎明館館長 (1976年法文学部卒業)
	川田雅子 氏 鹿児島市産業局産業振興部産業政策課長 (1988年法文学部卒業)
	内立元正嗣 氏 (株)南日本新聞社営業局広告営業部長 (1992年法文学部卒業)
	安水 学 氏 (株)鹿児島銀行人事部主任調査役 (1996年法文学部卒業)
	金蔵拓郎 氏 鹿児島大学医学部副学部長
	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科皮膚科学教授 (1983年医学部卒業)
	橋口照人 氏 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科血管代謝病態解析学教授 (1987年医学部卒業)

平成 28 年 12 月に引き続き、キャリア支援セミナー「きばいやんせ、鹿大生2017！」が開かれました。鹿児島大学法文学部並びに医学部OB・OGで地元企業、官公庁等で活躍している方々を講師に迎え今回で3回目を数えます。

第1部の全体セッションではまず講師全員による自己紹介のあと、学生時代からこれまでの経歴、仕事だけでなくプライベートも含めての経験談を失敗談も交えてお話いただきました。その経験の中で気付かされたこと、得たものが仕事のやりがいや失敗の後の対応の仕方にどのように生かされたか、また、学校や職場だけでなく様々な人との縁を大事にしてほしい、そういう人間関係を築いていくことで自分の「無知」に気づき視野を広げていくことに繋がっていく、今の経験は「ここに辿り着く為の経験だったのだ」とあとになって解る、人生は試行錯誤の連続であり、学生時代も大いに悩んでほしい、と、社会人そして人生の先輩として学生たちに語りかけてくださいました。学生時代に行っておくべきこと、学生の皆さんと鹿児島大学に期待することとして次のことを示されました。

- 人との出会いを大切に。学生時代の友人は一生の宝。
- 明確な目標設定をすることで夢が目標が変わっていく。
- お金が無くても時間を掛ければできることもある。何かに打込んで。
- 「万巻の書を読む」自分の専門は社会の一部、専門外で得た知識が自分の専門に活かせることは多々ある。
- 就職は社会貢献である。健康な社会とは認知症や障害、不治の病が減る事ではなく共存できる社会であることに貢献できる人間であってほしい。
- 外国の皆様と接する機会が多いので、外国語をぜひマスターしておいてほしい。
- 地元の豊かな歴史や文化などについて学んでほしい。
- 地域に根差し、「知的拠点施設」として飛躍・発展していく大学

第2部は講師の方を囲み6グループに分かれて座談会が持たれました。学生たちは就職や進路について悩みや質問を投げかけていました。講師の方は丁寧に答えてくださっていました。また研究やAI、哲学論などにまで話が及んでいるグループもあり大変盛り上がったセッションでした。

第3部では個別座談会の各講師からそれぞれ内容の報告が行われました。最後に前田学長より講師の方々に記念品が手渡され、江口正純同窓会連合会会長の挨拶をもって会を閉めました。



# 参加者募集

## 初心者歓迎



第37回

# 鹿児島大学 OB ゴルフ大会

開催日 平成30年4月15日(日) 第3日曜日 午前7時30分頃スタート

場 所 蒲生カントリークラブ(桜島コース・霧島コース・祁答院コース)

始良市蒲生町米丸2448 TEL0995-52-0381

参加費 3,000円 ※36回大会より一律3,000円になりました

その他 各学部上位10人の平均ネットスコア(ダブルペリア方式)で順位を決定する。

\*昨年度成績 団体優勝:工学部 団体2位:歯学部

(今回もセルフプレーでの参加もできます。ご希望の方はお申し込みの際、各学部実行委員へお申し出ください。)

募集締切 平成30年3月9日(金) 募集定員300人

お問い合わせ先

同窓会連合会のホームページをご覧ください

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/rengoukai/>

学部別実行委員

水産	TEL286-4080	fax286-4080	(辻口)
農	TEL247-5785	fax247-5785	(林)
医	TEL812-1133	fax812-1677	(上野)
法文・理	TEL254-7111	fax254-7101	(大重)
教育	TEL254-9664	fax254-9664	(山元)
歯	TEL239-4182	fax239-4180	(谷口)
工	TEL285-3408	fax285-3408	(淵田)
本部職員	TEL285-8215	fax285-8225	(野邊)

同窓会連合会事務局

(医学部同窓会事務局)

TEL 099-275-6881

FAX 099-265-9784

E-mail: kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

(開局日:木曜を除く 平日9:00~16:00)

懐かしい顔ぶれと共に、珍プレー好プレー続出です!一緒に楽しみましょう!!



## 鹿児島大学同窓会連合会総会 ならびに 懇親会～卒業生の集い～開催のお知らせ

鹿児島大学同窓会連合会では、毎年入学式後の最初の土曜日に総会ならびに懇親会～卒業生の集い～を開催しています。旧友や先輩・後輩との久しぶりの再会に話も弾み、和やかな雰囲気の中、さらにお互いの親睦を深める会となっています。卒業生であればどなたでも大歓迎ですので是非ご参加ください。参加ご希望の際は、各学部同窓会事務局へご連絡ください。

### 記

平成30年度 総会ならびに懇親会～卒業生の集い～

期 日：平成30年4月7日（土） 於：城山観光ホテル

時間・会場：総会 16時～17時 2F 開間の間

懇親会 18時～20時30分 2F アメジストホール鳳凰

参加費：6,500円

\*上記を予定しておりますが、変更される場合がございます。詳しくは同窓会連合会 HP <https://www.kagoshima-u.ac.jp/rengoukai/> をご覧ください。

### <平成29年度の様子>



教育学部 近況報告



工学部 近況報告



医学部 近況報告



宴☆闌



# 鹿児島大学同窓会連合会並びに各学部同窓会の連絡先

## 鹿児島大学同窓会連合会

〒890-0075  
鹿児島市桜ヶ丘8-35-1  
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局  
TEL 099-275-6881 FAX 099-265-9784  
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

## 鹿児島大学歯学部同窓会

〒890-8544  
鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1  
鹿児島大学歯学部内  
鹿児島大学歯学部同窓会事務局  
TEL・FAX 099-264-1600  
e-mail kashidousou@po2.synapes.ne.jp

## 鹿児島大学法文学部同窓会

〒890-0065  
鹿児島市郡元1-21-30  
鹿児島大学法文学部同窓会事務局  
TEL 099-250-3211 FAX 099-285-3573  
e-mail dousoukai@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 鹿児島大学工学部同窓会

〒890-0065  
鹿児島市郡元1-21-40  
鹿児島大学工学部同窓会事務局  
TEL・FAX 099-285-3494  
e-mail kadai.eng.dousoukai@gmail.com

## 鹿児島大学教育学部同窓会

〒890-0065  
鹿児島市郡元1-20-6  
鹿児島大学教育学部事務局内  
TEL・FAX 099-285-7718  
e-mail dousou@edu.kagoshima-u.ac.jp

## 鹿児島大学農学部あらた同窓会

〒890-0065  
鹿児島市郡元1-21-24  
鹿児島大学農学部あらた同窓会事務局  
TEL・FAX 099-285-8537  
e-mail aratakai@mc2.seikyou.ne.jp

## 鹿児島大学理学部同窓会

〒890-0065  
鹿児島市郡元1-21-35  
鹿児島大学理学部同窓会事務局  
TEL 099-285-8925  
e-mail dosokai@sci.kagoshima-u.ac.jp

## 鹿児島大学水産学部同窓会

〒890-0056  
鹿児島市下荒田4-50-20  
鹿児島大学水産学部同窓会魚水会事務局  
TEL・FAX 099-286-4080  
e-mail gyosui@fish.kagoshima-u.ac.jp

## 鹿児島大学医学部同窓会

〒890-0075  
鹿児島市桜ヶ丘8-35-1  
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局  
TEL 099-275-6881 FAX 099-265-9784  
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

## 鹿児島大学 同窓会連合会

〒890-0075 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1  
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局  
TEL 099-275-6881 FAX 099-265-9784  
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

印刷 斯文堂株式会社

〒891-0122 鹿児島市南栄2丁目12-6  
TEL 099-268-8211 FAX 099-269-5198  
e-mail info@shibundo.jp